堺化学工業株式会社

2027年３月期

中間決算説明会

2026年11月9日

【東京証券取引所・プライム市場　証券コード：4078】

本説明のポイント

27.3期上期実績

➢ **計画対比は、計画以上の進捗**

・電子材料：AIデータセンター関連の需要を取り込み、好調に推移。
・衛生材料：新規案件獲得や、コストダウン施策が寄与。
・受託加工：高付加価値品の出荷などが寄与し、販売構成が好転。
・無機材料： 塗料インキ向けバリウム製品、開発品(メガネレンズ向け材料)が堅調に推移。

➢ **前年同期比は、増収増益を確保**

・顔料級酸化チタン事業終了に伴う売上高、営業利益への影響を主に以下事業でカバーした。
→電子材料/衛生材料/受託加工については、計画対比と同様。
→樹脂添加剤：国内事業の効率化の進展や海外での非鉛系安定剤などの販売が好調に推移。
・化粧品材料、医療事業については、減益となった。
→化粧品材料：海外向けを中心に回復も、顔料級酸化チタン事業終了影響等により減益。
→医療事業：薬価切り下げや原燃料高の影響を受け減益。

➢ **60億円/1,520千株の自己株式取得を実施。**

CB（新株予約権付社債）転換により、新株1,519千株を発行。1株当たりの株主価値及び資本効率の向上を図るために自己株式取得を実施。取得株式に関しては、消却予定。

27.3期通期計画・中計の進捗

➢ **期初計画から、売上高＋33億円、営業利益＋5億円を見込む。**

・上期での計画以上の進捗を考慮。下期の主な見通しは以下の通り。
→電子材料：AIデータセンター関連や車載用途向けが引き続き堅調に推移。
→酸化チタン/亜鉛製品：国内亜鉛建値相場の高騰による収益上振れが継続。
→無機材料：開発品は下期に調整が入るものの、バリウム製品等の販売は堅調に推移。
→その他事業：道路材などの荷動きが堅調に推移。

➢ **純利益：＋2億円**

医療事業での構造改革費用を上期で計上したが、下期に政策保有株式の売却益を見込む。

➢ **株主還元：年間配当金は前回公表値を据え置く。**

➢ **ROE8%達成に向けて引き続き取り組む / CCC(180日以下)は達成できる見込み。**

2027年3月期 中間決算サマリー

2027年3月期 中間決算サマリー

● 前年同期比（売上高：+6.6%　／　営業利益：＋6.3%）

顔料級酸化チタン事業終了影響を、各事業でカバーし、増収増益を確保した。
売上高は、主に成長事業やその他事業でカバーし、6.6%の増収となった。
営業利益は、主に電子材料や受託加工、樹脂添加剤で利益を伸ばし、6.3%の増益となった。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場が好調に推移 ・国内亜鉛建値市況の上昇	・中国経済の長引く低迷 ・タイ経済の低迷 ・国内建材関連の需要低迷 ・日焼け止め市場の流行変化 （無機系 → 有機系）	・価格改定の実施 ・販売構成向上 (電子材料、受託加工) ・拠点集約完了(触媒)	・操業度の低下 （チタン事業の終了） ・一過性の評価損 （電子材料）

● 期初計画比 (売上高：+3.1% ／ 営業利益：　+12.5%)

売上高は、主に電子材料や、衛生材料、無機材料事業などの販売が好調に推移し、3.1%の増収となった。
営業利益は、安定事業での販売構成の向上や、効率化検討事業(無機材料)での販売量増により、12.5%の増益となった。

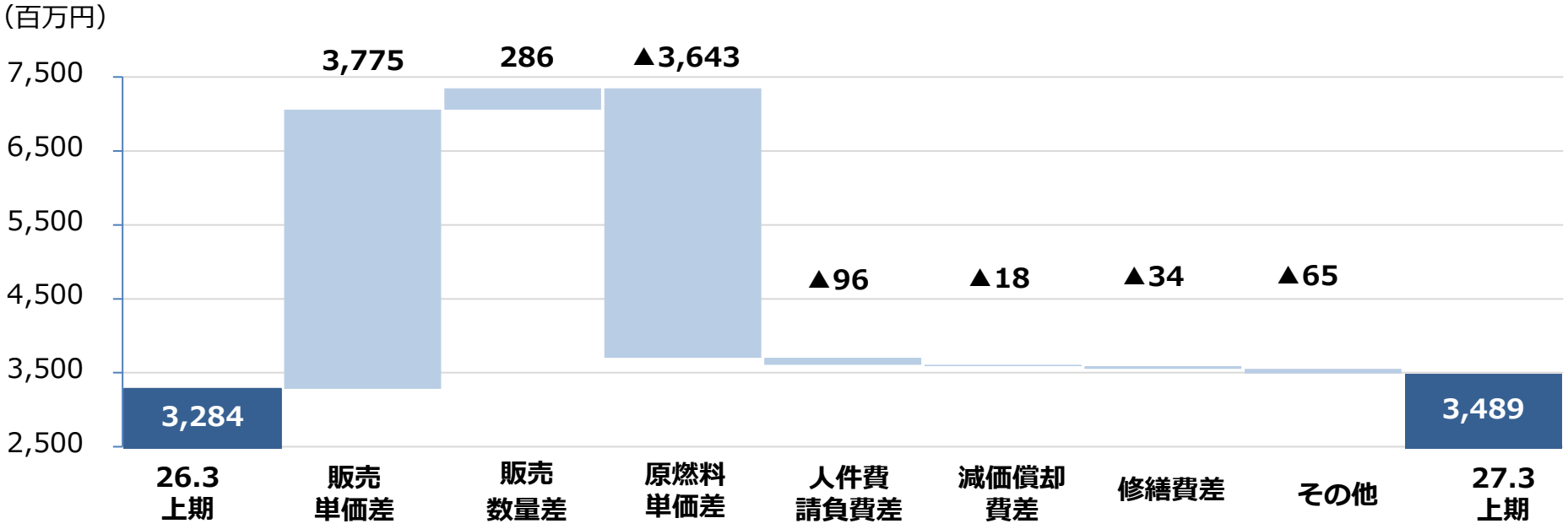
外 部 要 因		内 部 要 因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場が好調に推移 ・国内亜鉛建値市況の上昇	・中国経済の長引く低迷	・販売構成の向上 （受託加工）	・一過性の評価損 （電子材料）

2027年3月期中間決算業績概要（前年同期比、計画比）

	26.3 上期実績		27.3 上期実績		前年同期比		27.3 上期計画		27.3 上期計画比	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	40,353	―	43,000	―	2,647	6.6	41,700	―	1,300	3.1
営業利益	3,284	8.1	3,489	8.1	205	6.3	3,100	7.4	389	12.5
経常利益	3,269	8.1	3,572	8.3	303	9.3	3,200	7.7	372	11.6
親会社株主に帰属する当期純利益	2,926	7.3	2,522	5.9	▲404	▲13.8	2,800	6.7	▲278	▲9.9
EPS	184円65銭		161円25銭		―		182円87銭		―	

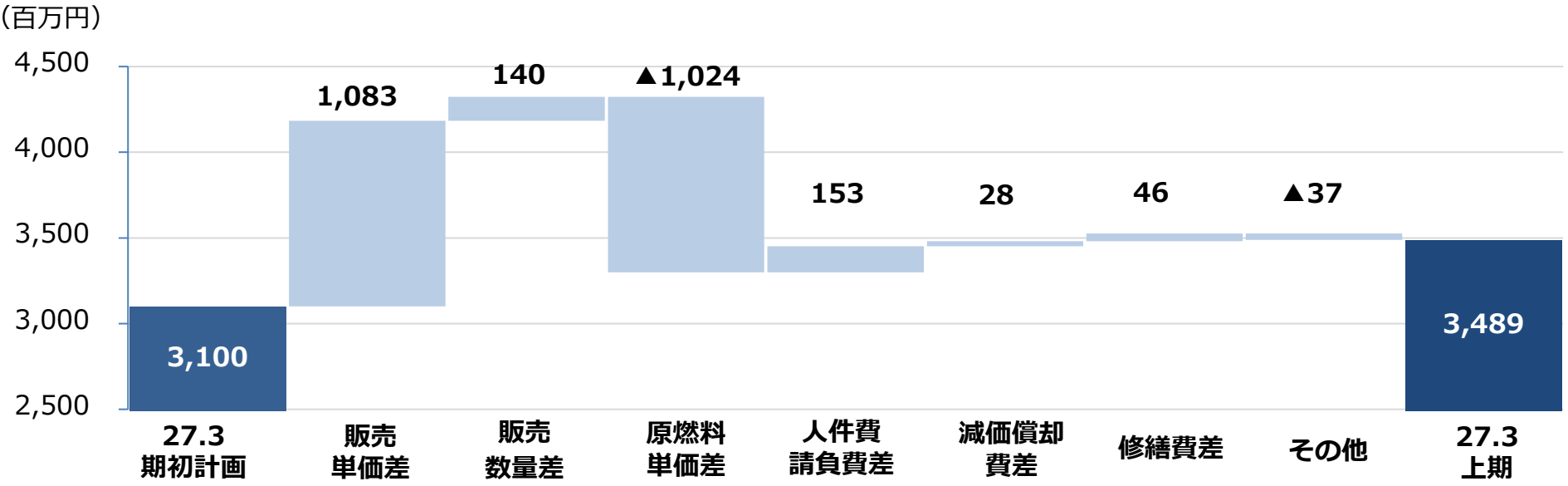
	前年同期比	期初計画比
売上高	顔料級酸化チタン事業終了による効率化検討事業での販売量減少はあったものの、電子材料やその他事業が好調に推移し、6.6%の増収となった。	顔料級酸化チタン事業終了にともない、酸化チタン・亜鉛製品での売上高の減少を、半導体市況が好調に推移した電子材料や、衛生材料、無機材料事業での販売量の増加により、計画比＋3.1%となった。
営業利益	電子材料が好調に推移し、安定事業での販売構成の向上もあり、6.3%の増益となった。	電子材料において一時的な製品評価損(▲141百万円)を計上したが、安定事業の販売構成の向上や効率化検討事業(無機材料・酸化チタン/亜鉛製品)での販売量増加により、計画比+12.5%となった。
純利益	医療事業での構造改革費用(▲420百万円)を特別損失として計上したことから、▲13.8%の減益となった。	医療事業での構造改革費用(▲420百万円)を特別損失として計上したことから、▲9.9%の減益となった。

営業利益増減要因（前年同期比）



プラス要因	マイナス要因
販売単価差 ・中東情勢悪化による原燃料/原材料のコスト上昇を価格に随時反映（樹脂添加剤、有機化学品） ・国内亜鉛建値相場の高騰	**原燃料単価差** ・中東情勢悪化による原燃料/原材料のコストの上昇

営業利益増減要因（期初計画比）



プラス要因	マイナス要因
販売単価差 ・中東情勢による原燃料/原材料のコスト上昇を価格に随時反映（樹脂添加剤、有機化学品） ・国内亜鉛建値相場の高騰	**原燃料単価差** ・中東情勢悪化による原燃料/原材料のコストの上昇

貸借対照表比較

比較連結 B/S　(単位：百万円)	2026.3	2026.9	増減
現金及び預金	15,502	15,063	▲439
受取手形及び売掛金	25,056	25,694	638
棚卸資産	23,881	23,247	▲634
その他	912	957	45
流動資産 合計	**65,352**	**64,961**	**▲391**
有形固定資産	43,167	42,033	▲1,134
その他	8,697	10,650	1,953
固定資産 合計	**51,864**	**52,683**	**819**
資産 合計	**117,216**	**117,644**	**428**
支払手形及び買掛金	8,632	9,758	1,126
短期借入金	8,357	10,458	2,101
その他	8,281	6,970	▲1,311
流動負債 合計	**25,272**	**27,186**	**1,914**
長期借入金	4,643	5,783	1,140
転換社債型新株予約権付社債	3,000	-	▲3,000
その他	5,376	6,095	719
固定負債 合計	**13,021**	**11,878**	**▲1,143**
負債 合計	**38,293**	**39,064**	**771**
株主資本	72,771	71,026	▲1,745
その他	6,150	7,554	1,404
純資産 合計	**78,923**	**78,580**	**▲343**
負債・純資産 合計	**117,216**	**117,644**	**428**

【主な増減】

・固定資産/その他　+1,953百万円
投資有価証券の評価差額による増加

・借入金　+3,241百万円
成長投資や自己株式取得資金
に充当。

・転換社債型新株予約権付社債 ▲3,000百万円
社債の転換により、新株1,519千株を発行

	24.3期末	26.9期末
自己資本比率	59.3%	65.7%
ＣＣＣ	216日	164日

▲ 52日の改善

(*CCC：キャッシュ・コンバージョン・サイクル)

キャッシュフロー計算書比較

比較連結 C/F（百万円）	2025.9	2026.9	増減
期首 現預金残高	**16,153**	**15,444**	**▲708**
税金等調整前当期純利益又は当期純損失	4,349	3,795	▲553
減損損失	14	387	372
減価償却費	1,849	1,905	56
売上債権の増減額	518	▲648	▲1,166
棚卸資産の増減額	310	675	365
有形固定資産の売却損益	▲1,172	▲1,172	-
仕入債務の増減額	545	967	421
法人税等の支払額、還付額	▲572	▲1,126	▲553
その他	▲89	▲681	▲592
営業活動によるキャッシュフロー	**5,752**	**4,102**	**▲1,649**
有形固定資産の取得による支出	▲3,677	▲1,770	1,906
有形固定資産の売却による収入	1,274	1,325	50
その他	▲199	▲248	▲49
投資活動によるキャッシュフロー	**▲2,602**	**▲693**	**1,908**
FCF(営業CF＋投資CF)	**3,149**	**3,409**	**259**
短期借入金・長期借入金の増減額	▲967	3,209	4,176
自己株式取得による支出	▲2,089	▲6,068	▲3,979
配当金の支払額	▲1,175	▲1,222	▲46
その他	▲1	▲76	▲75
財務C/F 計	**▲4,232**	**▲4,157**	**75**
現預金に係る換算差額 計	**▲222**	**85**	**308**
現預金増減 計	**▲1,305**	**▲662**	**643**
期末 現預金残高	**14,847**	**14,782**	**▲64**

【総括】
設備投資の一巡で投資CFの支出が減少し、FCFは約3億円増加。
総額約60億円の自己株式取得を実施し、株主価値及び資本効率の向上を図った。

【営業CF】
① 売上債権の増加（▲1,166百万円）
成長事業・安定事業・その他事業で売上高が増加

② 棚卸資産の減少（＋365百万円）
主に、酸化チタン製品の在庫販売によるもの。

【投資CF】
現中期経営計画での設備投資は一巡し、
前年対比で、投資CFは＋1,908百万円。

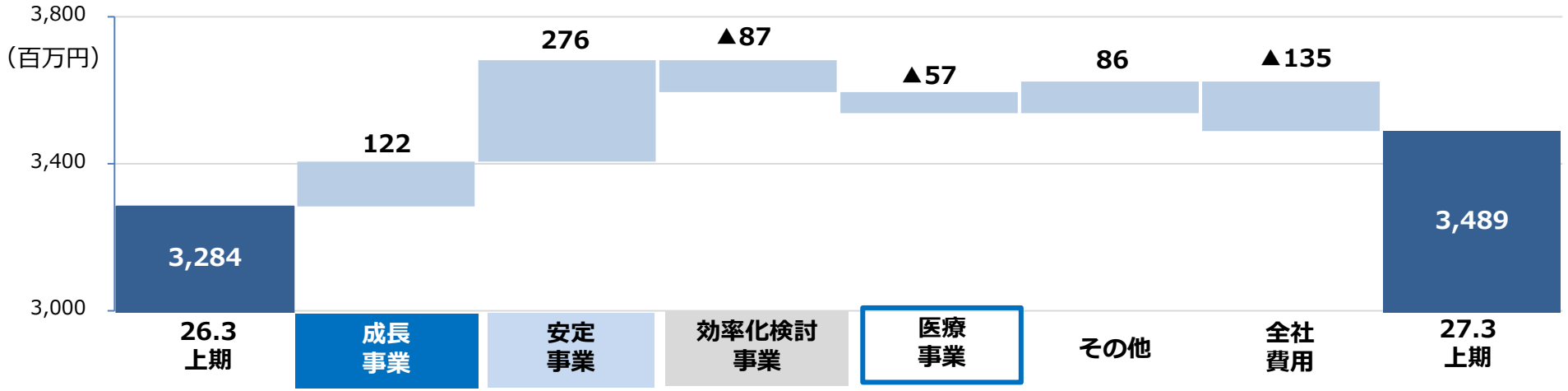
→ FCFは、3,409百万円(前期比＋259百万円)となった

【財務CF】
自己株式取得を実施。

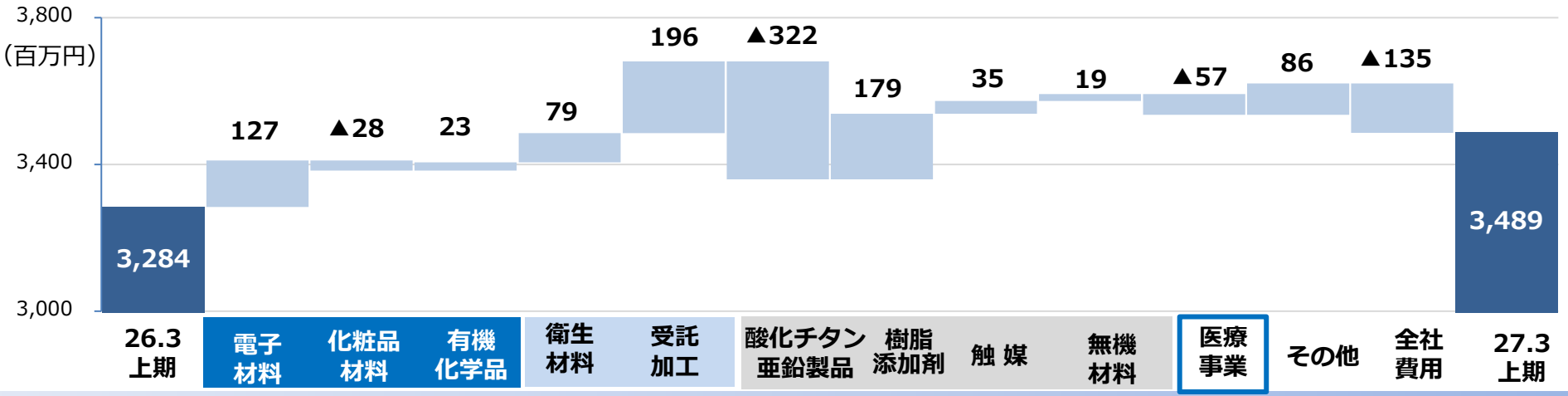
セグメント別 営業利益（前年同期比）

事業別 営業利益 明細 (百万円)	26.3 上期	27.3 上期	増減
成長事業	**1,300**	**1,423**	**122**
電子材料	1,014	1,141	127
化粧品材料	▲215	▲244	▲28
有機化学品	502	525	23
安定事業	**533**	**809**	**276**
衛生材料	181	260	79
受託加工	351	548	196
効率化検討事業	**1,819**	**1,732**	**▲87**
酸化チタン・亜鉛製品	657	335	▲322
樹脂添加剤	520	699	179
触媒	150	185	35
無機材料	491	511	19
医療事業	**72**	**15**	**▲57**
その他	**724**	**811**	**86**

セグメント営業利益増減（対前年同期比）



- 成長事業と安定事業によって増益を牽引した。
  (成長事業：AI関連で好調な電子材料事業、安定事業：販売構成の向上などがあった受託加工が中心)
- 顔料級酸化チタン事業終了影響が大きく、効率化検討事業は減益となったが、樹脂添加剤・触媒・無機材料では増益を確保した。



2027年3月期　業績予想

2027年3月期業績予想

- 下期は、電子材料は引き続き好調に推移するが、顔料級酸化チタンの在庫販売の減少や、好調であった無機材料での販売構成の悪化を見込むため、対上期比では減収減益となる見通し。
- 通期では、顔料級酸化チタン事業の終了影響を、主に好調な電子材料やその他事業でカバーし、対前年比では増収増益を見込む。
- 当期純利益は、前期計上した大幅な減損はなく、政策保有株式の売却益を考慮し、増益を見込む。

	26.3		27.3		27.3						
	通期実績		期初計画		上期実績		下期予想		修正計画		
	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	前期比 %
売上高	81,447	—	81,700	—	43,000	—	42,000	—	85,000	—	4.4
営業利益	6,452	7.9	6,000	7.3	3,489	8.1	3,011	7.2	6,500	7.6	0.7
経常利益	6,545	8.0	6,100	7.5	3,572	8.3	2,982	7.1	6,500	7.6	▲0.7
親会社株主に帰属する当期純利益	2,752	3.4	4,400	5.4	2,522	5.9	2,078	4.9	4,600	5.4	67.1

外部要因（想定）		内部要因（想定）	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場が好調に推移 ・国内亜鉛建値市況の高騰	・中国経済の長引く低迷	・下期繰り越し分の出荷（触媒）	・固定費負担割合の増加 ・在庫販売の減少（顔料級酸化チタン）

＊米国相互関税政策や中東情勢による影響は予測が困難なため、計画値には織り込んでいない。

事業環境の認識（中東情勢を除いたもの）

	事業	27.3期 計画の前提（5月時点）	27.3期 計画の前提（11月時点）
成長事業	電子材料	・AIデータセンター関連については好調を維持する。	・AIデータセンター関連や車載関連については堅調に推移していく見通し。
	化粧品材料	・中国向けは引き続き厳しい見通し。 ・世界的にインフレ基調であり、一時的なコスト重視の傾向から、有機系材料から無機系材料へのシフトは想定より鈍い。	・中国向けは引き続き厳しい見通し。 ・世界的にインフレ基調であり、一時的なコスト重視の傾向から、有機系材料から無機系材料へのシフトは想定より鈍い。 ・欧米向けをはじめ、海外向けは回復基調にある。
	有機化学品	・光学機能材料市場は、堅調に推移していく。 ・医薬品原薬中間体の主力商流品の受託は、競争環境の激化により減少傾向の見通し。	・光学機能材料市場は、堅調に推移していく。 ・医薬品原薬中間体の主力商流品の受託は、競争環境の激化により減少傾向の見通し。
効率化検討事業	酸化チタン亜鉛製品	・亜鉛国内建値市況は、前期に比べると、上昇する見通し。	・亜鉛国内建値市況は、上期同様、高水準で推移する見通し。
	樹脂添加剤	・国内需要： PVC市況も下降傾向で、販売の増加は厳しい見込み。 ・海外需要： 中期的なPVC市況の拡大には変わらず、タイ経済の低迷は底を打つ見通し。	・国内需要： PVC市況も下降傾向で、販売の増加は厳しい見込み。 ・海外需要： 中期的なPVC市況の拡大には変わらず、タイ経済の低迷は底を打つ見通し。
	無機材料	・自動車関連部品・素材は、低調に推移する見通し ・メガネレンズ市場は、堅調に推移していく。	・自動車関連部品・素材は、堅調に推移する見通し ・メガネレンズ市場は、堅調に推移していく。

PVC：polyvinyl chloride（ポリ塩化ビニル）

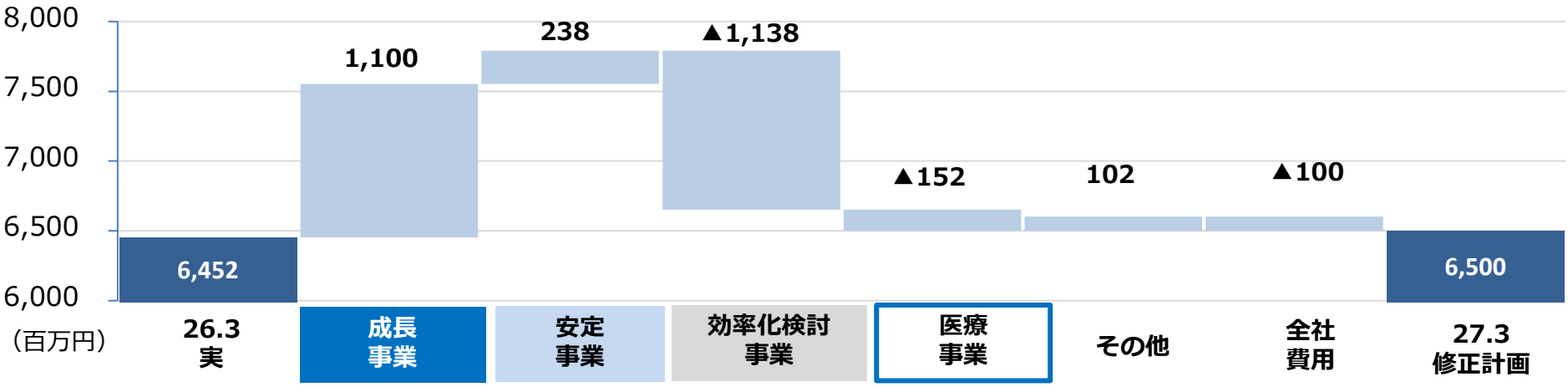
セグメント別 予想（対前期実績比）

	26.3 期 実績			27.3 期 修正計画			差			
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
電子材料	11,377	1,816	16.0	12,800	2,600	20.3	1,423	12.5	784	43.2
化粧品材料	1,720	▲437	▲25.4	2,000	▲400	▲20.0	280	16.3	37	▲8.5
有機化学品	7,185	721	10.0	8,000	1,000	12.5	815	11.3	279	38.7
衛生材料	5,353	457	8.5	6,000	500	8.3	647	12.1	43	9.4
受託加工	6,677	805	12.1	7,200	1,000	13.9	523	7.8	195	24.2
酸化チタン 亜鉛製品	10,244	1,222	11.9	6,800	300	4.4	▲3,444	▲33.6	▲922	▲75.5
樹脂添加剤	11,507	1,068	9.3	11,800	1,200	10.2	293	2.5	132	12.4
触媒	3,462	648	18.7	4,000	700	17.5	538	15.5	52	8.0
無機材料	5,100	1,200	23.5	5,600	800	14.3	500	9.8	▲400	▲33.3
医療事業	8,391	▲48	▲0.6	8,700	▲200	▲2.3	309	3.7	▲152	—
その他	10,427	1,498	14.4	12,100	1,600	13.2	1,673	16.0	102	6.8
全社費用	—	▲2,500	—	—	▲2,600	—	—	—	▲100	—
連結	**81,447**	**6,452**	**7.9**	**85,000**	**6,500**	**7.6**	**3,553**	**4.4**	**48**	**0.7**

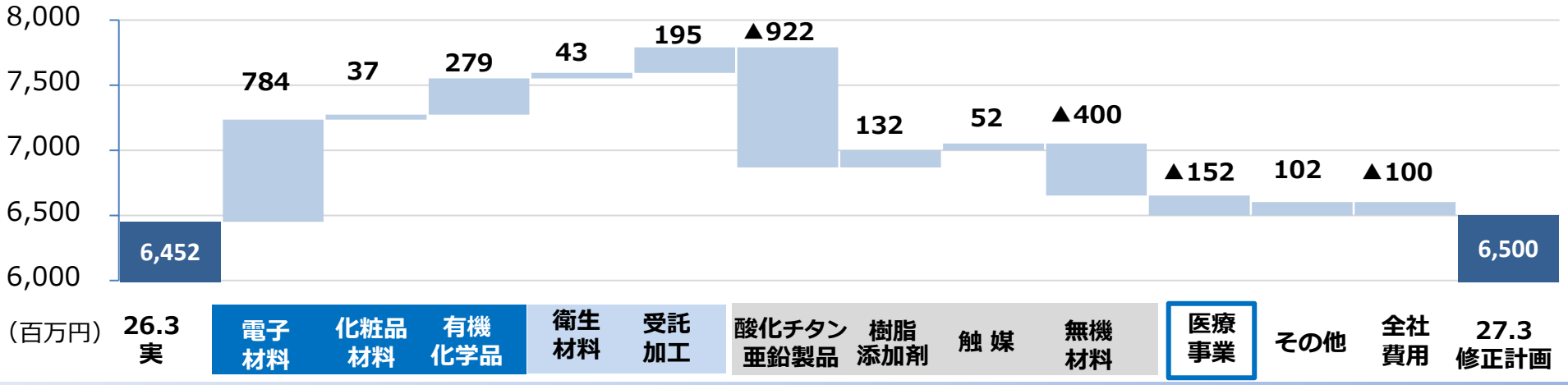
セグメント別 予想（対期初計画比）

	27.3 期　期初計画			27.3 期 修正計画			差			
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
電子材料	11,500	2,400	20.9	12,800	2,600	20.3	1,300	11.3	200	8.3
化粧品材料	2,000	▲400	▲20.0	2,000	▲400	▲20.0	0	—	0	—
有機化学品	8,000	1,000	12.5	8,000	1,000	12.5	0	—	0	—
衛生材料	5,200	400	7.7	6,000	500	8.3	800	15.4	100	25.0
受託加工	7,100	900	12.7	7,200	1,000	13.9	100	1.4	100	11.1
酸化チタン 亜鉛製品	6,800	100	1.5	6,800	300	4.4	0	—	200	200.0
樹脂添加剤	11,800	1,200	10.2	11,800	1,200	10.2	0	—	0	—
触媒	4,000	700	17.5	4,000	700	17.5	0	—	0	—
無機材料	5,100	700	13.7	5,600	800	14.3	500	9.8	100	14.3
医療事業	8,700	▲200	▲2.3	8,700	▲200	▲2.3	0	—	0	—
その他	11,500	1,500	13.0	12,100	1,600	13.2	600	5.2	100	6.7
全社費用	—	▲2,300	—	—	▲2,600	—	—	—	▲300	—
連結	**81,700**	**6,000**	**7.3**	**85,000**	**6,500**	**7.6**	**3,300**	**4.0**	**500**	**8.3**

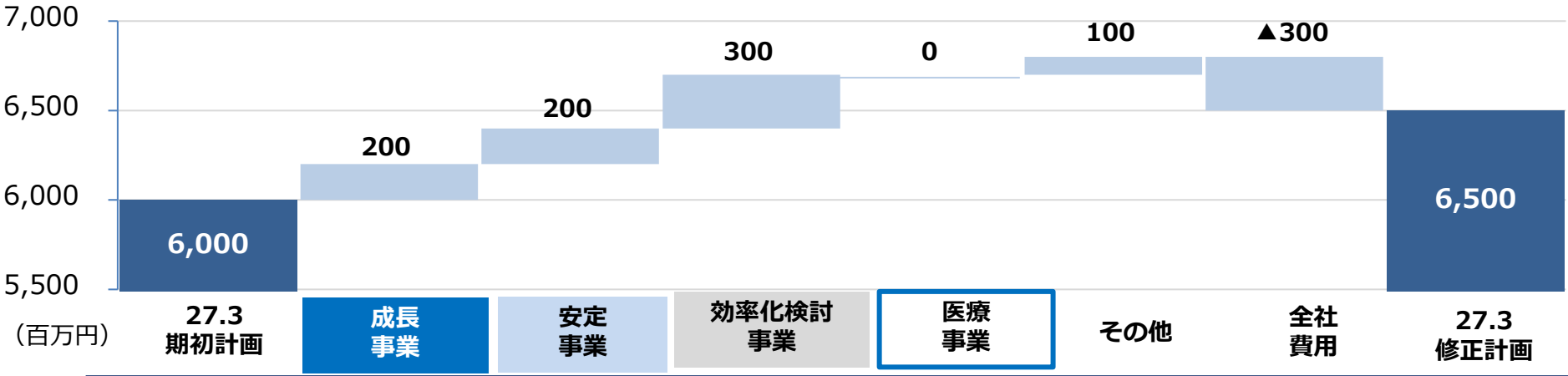
27.3期修正計画セグメント営業利益増減(対前期実績比)



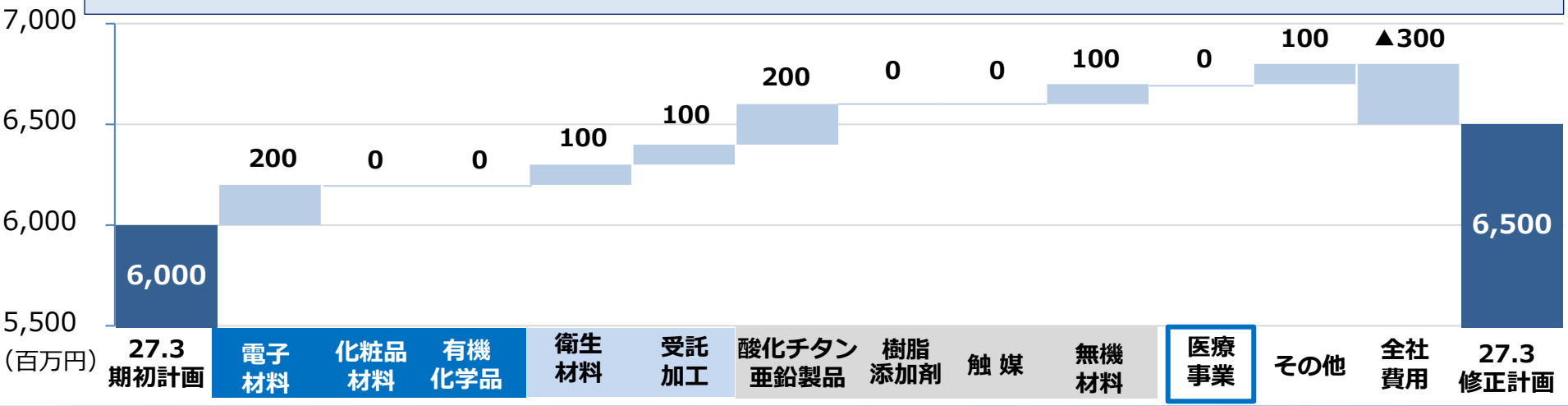
- 顔料級酸化チタン事業終了影響が大きい効率化検討事業によるマイナスを、堅調なAIデータセンター関連や車載関連で好調な電子材料で主に跳ね返し、前期並みの営業利益を見込む。



27.3期修正計画セグメント営業利益増減(対期初計画比)



- 全社費用の膨らみを、成長事業、安定事業、効率化検討事業それぞれでカバーする見通し。
  - ・成長事業:電子材料：AIデータセンター・車載関連が堅調に推移
  - ・安定事業:上期好調であった分を通期で考慮
  - ・効率化検討事業：酸化チタン亜鉛製品/亜鉛建値の高騰、無機材料は上期好調であった分を通期で考慮
- 全社費用は、特別転進支援プログラムの想定人数を上回る希望があったこと等によって、増加する見込み。



設備投資・減価償却・研究開発費推移

(単位：百万円)

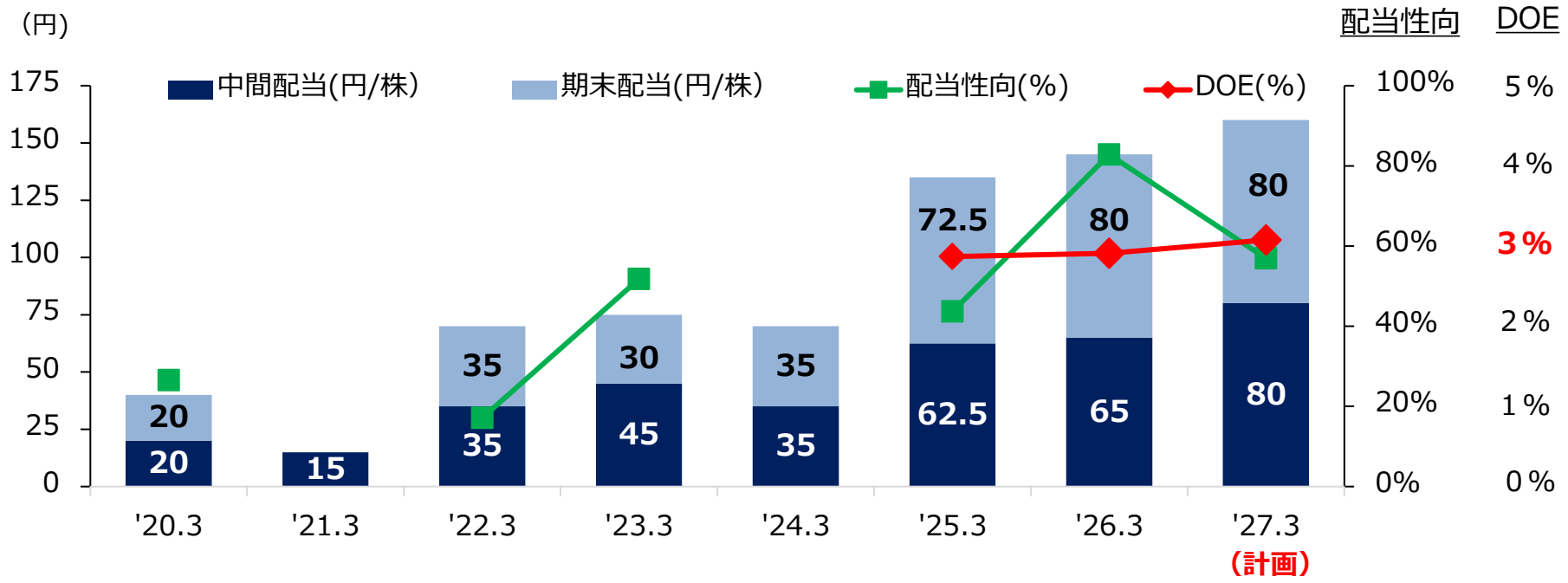
	22.3	23.3	24.3	25.3	26.3	27.3 計画	26.9
設備投資	5,967	2,658	4,024	6,945	6,065	5,400	2,246
減価償却費	4,331	4,417	4,354	3,649	3,735	4,000	1,905
研究開発費	2,376	2,674	2,722	2,699	2,842	3,300	1,433

設備投資について		
	26.9	
	成長投資	更新投資
比率	約30%	約70%
主な内容	・無機材料： メガネレンズ材料向け 酸化ジルコニウム分散液増強	・堺・小名浜両事業所 再構築 ・システムの保守点検

株 主 還 元

- 年間配当金は、前回公表値から据え置く。

  中間配当：80円/株、期末配当：80円/株の、**160円/株**の年間配当を予定 (**予想**DOE：3%超)



自己株式取得	―	―	15億円	―	―	―	25億円	未定

DOE：Dividend on Equity（自己資本配当率）

新株予約権の行使及び新株発行について（後発事象）

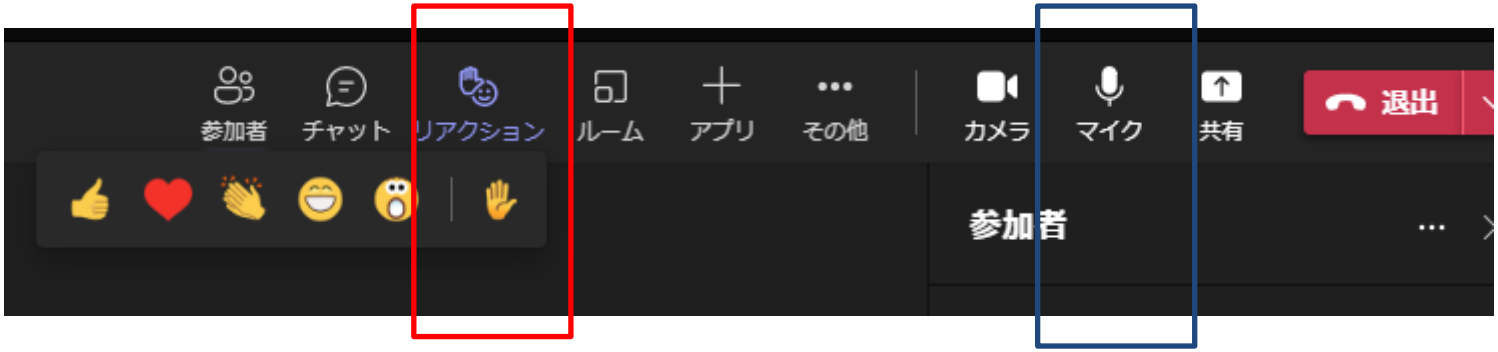
- 2023年6月発行の第4回新株予約権について、割当先（SH1, L.P.）より全額の行使請求があり、2026年10月26日までに行使完了・新株発行
- 調達資金（約**20億円**）は、全額をM&A待機資金に充当予定
- 年間配当予想（160円/株）への影響はなし

行使された新株予約権の数	10,126個（発行総数の100.0%）
交付株式数	1,012,600株
行使額面総額	1,999,885,000円（発行総額の100.0%）
未行使新株予約権数	0個（未行使残存額 0円）
（参考）発行済株式数	17,518,987株（うち自己株式 2,202,559株）※9月末

■ 調達資金の使途

・全額をM&A待機資金とし、成長事業を中心とした事業拡大に資するM&Aに充当する予定
・現時点において、M&Aの具体的な内容および金額について決定した事実はなし
・待機資金を新株予約権発行時点の権利行使期限（2027年12月末）までにM&A 資金として充当ができなかった場合や、未充当額が生じた場合等においては、リスクの高い投資（研究開発投資・新事業投資）の資金として充当することも検討

質疑応答



ご質問のある方は画面上の**「リアクション」**から挙手をお願いします。

同時に複数の方が手を挙げられた場合には、順番にご案内します（手を挙げるボタンは押したままにしてください）。

事務局よりお名前をお呼びしますので、**マイクミュートを解除の上**ご発言を開始してください。**（＊当社HPに公開する書き起しでは、お名前を伏せさせて頂きます。）**

質疑応答が終わりましたら同じ**「リアクション」**機能から手をおろし、また**マイク**をオフにしてください。

2027年3月期 報告セグメント詳細

旧セグメント・新セグメントの関係性

旧セグメント	旧サブセグメント	24.3期	事業ポートフォリオ変革に向けた定義
化学事業	成長事業	電子材料 化粧品材料	**中長期の利益成長を牽引**する事業として、市場ニーズ取込みを加速
	安定事業	衛生材料 有機化学品 25.3期～成長事業へ 受託加工	安定収益を創出する事業として、今後も維持
	効率化検討事業	酸化チタン・亜鉛 樹脂添加剤 触媒 ＊無機材料	事業構造や業績水準を踏まえ、**抜本的な対策を実施し、安定・成長事業へのシフト**を図る
医療事業			薬価改定の影響を受けない製品へのシフト

新セグメント

25.3期 → 27.3期

- 電子材料
- 化粧品材料
- 有機化学品
- 衛生材料
- 受託加工
- 酸化チタン
- 亜鉛
- 樹脂添加剤
- 触媒
- ＊無機材料
- 医療

＊New

電 子 材 料

成長事業

● 前年同期比

	26.3 上期		27.3 上期		増　減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	5,847	―	6,377	―	530	9.1
営業利益	1,014	17.4	1,141	17.9	127	12.5

● 前年同期比

売上高	**(＋) 高付加価値品の販売量の増加** 全体の販売量に大きな変化はないものの、誘電体・誘電体材料ともに、AIサーバー関連向けと思われる高付加価値品の荷動きが良く、増収となった。
営業利益	**(＋) 販売構成の向上** 全体の販売量に大きな変化はないものの、誘電体・誘電体材料ともに、AIサーバー関連向けと思われる高付加価値品の荷動きが良くなり、収益率が向上し、増益となった。

● 期初計画比

	27.3 計画		27.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	11,500	―	6,377	―	55.5
営業利益	2,400	20.9	1,141	17.9	47.5

● 期初計画比

売上高	**(＋) 販売量の増加** 半導体市況の回復に伴い、誘電体・誘電体材料の出荷が好調に推移した結果、計画進捗率は 55.5% となった。
営業利益	**(－)一時的な評価損(誘電体材料)** 半導体市況の回復に伴い、誘電体・誘電体材料の出荷が好調に推移したが、誘電体材料において一時的な製品評価損(▲141百万円)を計上したため、47.5%の進捗となった。

化 粧 品 材 料

成長事業

● 前年同期比

	26.3 上期		27.3 上期		増　減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	694	―	1,047	―	352	50.7
営業利益	▲215	―	▲244	―	▲28	―

● 前年同期比

売上高	**(＋) 販売数量の回復** 国内向けは、中国の景気後退の影響が依然継続しているが、海外向けは欧米向けを中心に出荷量が回復してきており、増収となった。
営業利益	**(－) 酸化チタン事業終了に伴う固定費負担割合増の影響** 売上は回復してきているものの、酸化チタン事業終了に伴い、一般管理費などの固定費負担割合が従前に比べ増加したことにより、減益となった。

● 期初計画比

	27.3 計画		27.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	2,000	―	1,047	―	52.4
営業利益	▲400	―	▲244	―	―

● 期初計画比

売上高	**(±) 概ね計画通り** 海外向けを中心に販売量増に向けた取り組みを進めており、概ね計画通りの売上高となった。
営業利益	**(－) 計画以上の工程休止費用** 海外向けを中心に販売量増に向けた取り組みを進めており、概ね計画通りの売上高となったが、計画以上の工程休止費用などがあり、上期は▲244百万円となった。

有機化学品

成長事業

● 前年同期比

	26.3 上期		27.3 上期		増　減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	3,814	―	4,002	―	187	4.9
営業利益	502	13.2	525	13.1	23	4.7

● 前年同期比

売上高	**(＋) 販売量の増加（有機イオウ化合物）** 医薬品原薬中間体の販売量は変わらないものの、光学機能材料としての有機イオウ化合物の販売量が増加した結果、増収となった。
営業利益	**(＋)販売量の増加（有機イオウ化合物）** 医薬品原薬中間体では、販売構成差の悪化により減益となったが、有機イオウ化合物の販売が好調に推移し、増益となった。

● 期初計画比

	27.3 計画		27.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	8,000	―	4,002	―	50.0
営業利益	1,000	12.5	525	13.1	52.5

● 期初計画比

売上高	**(±) 概ね計画通り** 有機イオウ化合物及び医薬品原薬中間体の販売は、概ね計画通りの進捗となった。
営業利益	**(±) 概ね計画通り** 有機イオウ化合物及び医薬品原薬中間体の利益進捗は、概ね計画通りの進捗となった。

衛 生 材 料

安定事業

● 前年同期比

	26.3 上期		27.3 上期		増　減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	2,570	–	3,127	–	556	21.7
営業利益	181	7.0	260	8.3	79	43.9

● 前年同期比

売上高	**(＋)販売量の増加** インドネシアでの通気性フィルム製造販売事業ではコストダウン品フィルムの販売量が伸び、トレーディング関連でも新規の取り扱いが増えるなどし、増収となった。
営業利益	**(＋) コストダウン、販売量の増加** インドネシアでの通気性フィルム製造のコストダウン施策の浸透や、トレーディング関連での取扱量の増加により、増益となった。

● 期初計画比

	27.3 計画		27.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	5,200	–	3,127	–	60.1
営業利益	400	7.7	260	8.3	65.0

● 期初計画比

売上高	**(＋) 販売数量の増加** 主にトレーディング関連商材の新規取り扱いが増えたことにより、60.1%の進捗となった。
営業利益	**(＋) 販売数量の増加** 主にトレーディング関連商材の新規取り扱いが増えたことにより、65.0%の進捗となった。

受 託 加 工

安定事業

● 前年同期比

	26.3 上期		27.3 上期		増　減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	3,291	―	3,646	―	354	10.8
営業利益	351	10.7	548	15.0	196	55.8

● 前年同期比

売上高	**(＋) 販売量の増加** 加工顔料、工程受託ともに、既存顧客中心に販売が好調に推移し、増収となった。
営業利益	**(＋) 販売量の増加、販売構成の向上(加工顔料)** 加工顔料、工程受託ともに、販売が好調に推移したことに加え、加工顔料では高付加価値品の出荷が増加したので、増益となった。

● 期初計画比

	27.3 計画		27.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	7,100	―	3,646	―	51.4
営業利益	900	12.7	548	15.0	60.9

● 期初計画比

売上高	**(±)概ね計画通り** 加工顔料、工程受託ともに概ね計画通り推移し、51.4%の進捗となった。
営業利益	**(＋)販売構成の向上（加工顔料）** 特に加工顔料において高付加価値品の出荷などもあり、販売構成が向上し、利益進捗は60.9%となった。

酸化チタン・亜鉛製品（化粧品材料を除く）

効率化検討事業

● 前年同期比

	26.3 上期		27.3 上期		増　減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	5,138	–	3,639	–	▲1,499	▲29.2
営業利益	657	12.8	335	9.2	▲322	▲49.0

● 前年同期比

売上高	**(－) 顔料級酸化チタン事業終了による販売量の減少** 前期の酸化チタン事業終了の影響が大きく、今期はその在庫販売のみとなっており、販売量が減少し、減収となった。
営業利益	**(－) 顔料級酸化チタン事業終了による販売量の減少** 前期の顔料級酸化チタン事業終了の影響が大きく、今期はその在庫販売のみとなっており、販売量が減少し、減益となった。

● 期初計画比

	27.3 計画		27.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	6,800	–	3,639	–	53.5
営業利益	100	1.5	335	9.2	335.0

● 期初計画比

売上高	**(＋)在庫販売の前倒し、国内亜鉛建値相場の高騰** 顔料級酸化チタンの在庫販売が一部前倒しで進んだ影響や、亜鉛製品での国内亜鉛建値相場の高騰により、計画進捗率は53.5%となった。
営業利益	**（＋）在庫販売の前倒し** 特に顔料級酸化チタンの在庫販売の前倒しの影響が大きく、計画進捗率は335.0%となった。

樹 脂 添 加 剤

効率化検討事業

● 前年同期比

	26.3 上期		27.3 上期		増　減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	5,820	―	6,217	―	396	6.8
営業利益	520	8.9	699	11.3	179	34.5

● 前年同期比

売上高	**(＋) 価格改定（国内）、販売量の増加（海外）** 国内は、採算性重視の施策で販売量は減少しているものの、原燃料高騰分の価格改定により、増収となった。 海外では、タイ現地法人では経済低迷の影響が依然残っているが、ベトナム現地法人での拡販が進んでおり、増収となった。
営業利益	**(＋) 効率化（国内）、販売量の増加（海外）** 国内は、採算性重視の施策で製販の効率化が進み、増益となった。海外では、ベトナム現地法人での拡販が進んでおり、増益となった。

● 期初計画比

	27.3 計画		27.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	11,800	―	6,217	―	52.7
営業利益	1,200	10.2	699	11.3	58.3

● 期初計画比

売上高	**(＋)販売量の増加（海外）** 注力している海外（特にベトナム現地法人）での販売が好調に推移し、52.7%の進捗となった。
営業利益	**(＋)販売量の増加（海外）** 注力している海外（特にベトナム現地法人）での販売が好調に推移し、58.3%の進捗となった。

触 媒

● 前年同期比

	26.3 上期		27.3 上期		増　減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	1,221	―	1,579	―	358	29.4
営業利益	150	12.3	185	11.8	35	23.5

● 前年同期比

売上高	**(＋) 販売数量の増加（ニッケル触媒）** 脱硝触媒については、一部販売が下期に繰り下がった影響で販売量は減少したが、ニッケル触媒は前年度低かった顧客の操業度が戻り、販売数量が増加したので、増収となった。
営業利益	**(＋) 効率化に向けた費用の剥落** 前期上期まで実施していた拠点集約に伴う一時的な費用が今期からはないため、増益となった。

● 期初計画比

	27.3 計画		27.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	4,000	―	1,579	―	39.5
営業利益	700	17.5	185	11.8	26.4

● 期初計画比

売上高	**(±) 概ね計画通り** 脱硝触媒の販売が一部下期に繰り下がったこともあるが、下期に販売量を伸ばす計画であったため、計画進捗率は 39.5% であるが、概ね計画通りである。
営業利益	**(±) 概ね計画通り** 売上高に記載の通りであり、計画進捗率は 26.4% と低いが、概ね計画通りである。

無 機 材 料

効率化検討事業

● 前年同期比

	26.3 上期		27.3 上期		増　減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	2,633	―	2,911	―	278	10.6
営業利益	491	18.7	511	17.6	19	4.0

● 前年同期比

売上高	**(＋) 販売量の増加** 主力である塗料・インキ向けのバリウム製品及び開発品(メガネレンズ向け高屈折及びハードコート材である酸化ジルコニウム分散液)の販売が堅調に推移し、増収となった。
営業利益	**(＋) 販売量の増加** 顔料級酸化チタン事業終了に伴う固定費負担割合の増加はあったが、主力である塗料・インキ向けのバリウム製品及び開発品の販売が堅調に推移し、増益となった。

● 期初計画比

	27.3 計画		27.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	5,100	―	2,911	―	57.1
営業利益	700	13.7	511	17.6	73.0

● 期初計画比

売上高	**(＋) 販売量の増加** 主力である塗料・インキ向けのバリウム製品及び開発品の販売が予算以上に推移したことで、57.1%の進捗となった。
営業利益	**(＋) 販売量の増加** 特に開発品の販売が予算以上に推移したことで、73.0%の進捗となった。

医療事業

医　療

● 前年同期比

	26.3 上期		27.3 上期		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	4,356	―	4,352	―	▲4	▲0.1
営業利益	72	1.7	15	0.3	▲57	▲79.0
売上高(新規)	978	―	1,011	―	33	3.4

＊新規とは、薬価改定の影響を受けない新規事業のことです。

● 前年同期比

売上高

(－) 薬価切り下げ影響、医療機器の販売台数減

医療用医薬品では、主力バリウム造影剤は輸出向けの販売が伸びたが、消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬「アルロイドG」については薬価切り下げ影響があり、医療用機器では前期キャンペーンの反動減も相まって、減収となった。

営業利益

(－)薬価切り下げ影響、原材料高騰影響

原材料価格が高騰する中、医療用医薬品での薬価切り下げ影響が大きく、減益となった。

● 期初計画比

	27.3 計画		27.3 上期		計画進捗率
	百万円	%	百万円	%	%
売上高	8,700	―	4,352	―	50.0
営業利益	▲200	▲2.3	15	0.3	―
売上高（新規事業）	2,000	―	1,011	―	50.6

● 期初計画比

売上高

(±)概ね計画通り（医療機器/受託：○ OTC医薬品：▲）

OTC医薬品などのヘルスケア事業関連は計画を下回っているが、医療機器のメンテナンス契約や消耗品の販売、受託製品などが計画比では堅調に推移し、計画進捗率は、50.0%となった。

営業利益

(＋)医療機器・受託製品の増加

上期は薬価の影響を受けない医療機器や受託製品の出荷が堅調に推移したので、営業損失計画に対して黒字での進捗となっている。

参　考　資　料

- 当社概要
- 事業紹介
- 業績推移等



堺化学工業㈱　会社概要

本　　社	堺市堺区戎島町5丁2番地
代 表 者	代表取締役社長　　矢 倉　敏 行
創　　業	1918年6月
事業内容	無機化学工業製品、有機化学品、医薬品の 開発・製造・販売
総 資 産	117,684百万円（2026年9月末現在）
純 資 産	78,580百万円（2026年9月末現在）
関係会社	連結子会社15社（国内7社、海外8社）
従業員数	連結1,942名／単体769名（2026年3月末現在）

当社グループ と 報告セグメント の関係性について

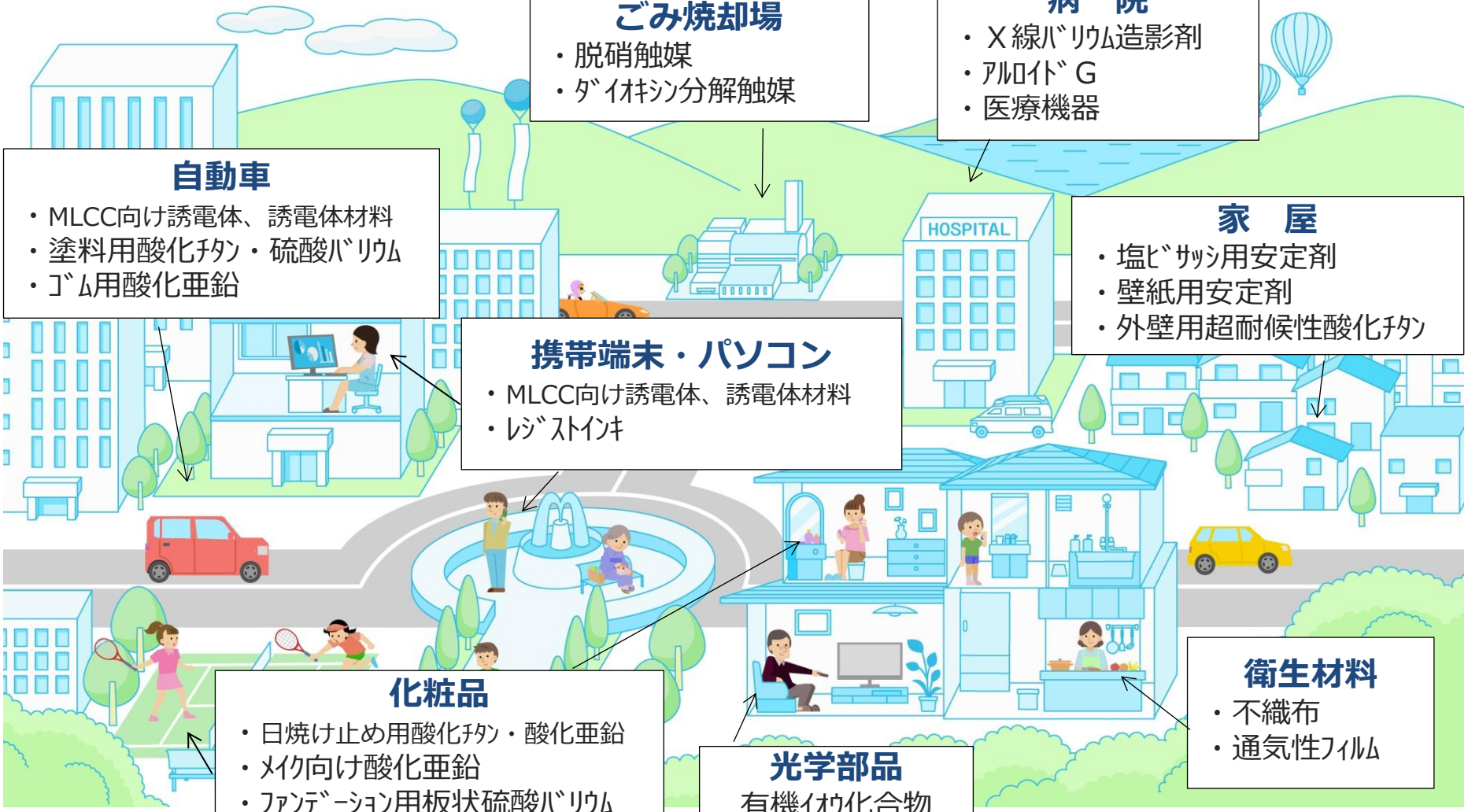
	電子材料	化粧品材料	有機化学品	衛生材料	受託加工	酸化チタン亜鉛製品	樹脂添加剤	触媒	無機材料	医療事業	その他
堺化学工業㈱	●	●	●			●	●	●	●	●	
堺商事㈱	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カイゲンファーマ㈱										●	
大崎工業㈱											●
レジノカラー工業㈱					●						
共同薬品㈱							●				
日本カラー工業㈱					●						
㈱片山製薬所			●								
SCVN＊1							●				
SSC＊2							●				
S&S＊3				●							

＊1 ：SAKAI CHEMICAL(VIETNAM) CO., LTD.

＊2 ：SIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD.

＊3 ：PT. S&S HYGIENE SOLUTION

暮らしに息づく当社グループ製品



ごみ焼却場
- 脱硝触媒
- ﾀﾞｲｵｷｼﾝ分解触媒

病　院
- Ｘ線ﾊﾞﾘｳﾑ造影剤
- ｱﾙﾛｲﾄﾞＧ
- 医療機器

自動車
- MLCC向け誘電体、誘電体材料
- 塗料用酸化ﾁﾀﾝ・硫酸ﾊﾞﾘｳﾑ
- ｺﾞﾑ用酸化亜鉛

家　屋
- 塩ﾋﾞｻｯｼ用安定剤
- 壁紙用安定剤
- 外壁用超耐候性酸化ﾁﾀﾝ

携帯端末・パソコン
- MLCC向け誘電体、誘電体材料
- ﾚｼﾞｽﾄｲﾝｷ

化粧品
- 日焼け止め用酸化ﾁﾀﾝ・酸化亜鉛
- ﾒｲｸ向け酸化亜鉛
- ﾌｧﾝﾃﾞｰｼｮﾝ用板状硫酸ﾊﾞﾘｳﾑ

光学部品
有機ｲｵｳ化合物

衛生材料
- 不織布
- 通気性ﾌｨﾙﾑ

セグメント集計の変更に関して

目的	堺商事株式会社を完全子会社化したことに伴い、同社の事業内訳を正確に把握し、併せて、 より実態に即したセグメント情報の管理・開示を可能とする。
変更内容	① 報告セグメントであった化学事業を廃止し、 同事業におけるサブセグメントをそれぞれ報告セグメントへと変更 ② 化学事業のその他に含まれていた無機材料を、報告セグメントとして別掲 ③ 堺商事株式会社が扱う事業を、より正確に各報告セグメントへ分類

旧

◇ **化 学 事 業**
- 電 子 材 料
- 化 粧 品 材 料
- 有 機 化 学 品
- 衛生材料
- 受託加工
- 酸化チタン・亜鉛製品
- 樹脂添加剤
- 触媒
- その他

◇ **医 療 事 業**

◇・・・報告セグメント

新

◇ **電 子 材 料**
◇ **化 粧 品 材 料**
◇ **有 機 化 学 品**
◇ **衛 生 材 料**
◇ **受 託 加 工**
◇ **酸化チタン・亜鉛製品**
◇ **樹 脂 添 加 剤**
◇ **触 媒**
◇ **無 機 材 料**
◇ **医 療 事 業**
◇ **そ の 他(上記以外のもの)**

CCCの改善について　～「変革・BEYOND2030」の進捗経過～

■ CCC 目標：日数ベース：180日以下、
金額ベース：3か年累計70億円（27.3）

➢ **24.3期対比では、CCCは52日圧縮し164日、営業CFは101億円創出しており、目標を大きく上回っている。**

	単位	24.3	25.3	26.3	26.9	増減 (24.3 ⇔ 26.9)
売上債権回転期間	日	130	115	111	108	▲22
棚卸資産回転期間	日	126	115	106	97	▲ 29
仕入債務回転期間	日	40	37	38	41	＋1
CCC	**日**	**216**	**194**	**178**	**164**	**▲52**
運転資金	**億円**	**492**	**454**	**403**	**391**	**▲101**

【算出条件】運転資金 ÷ 売上高 × 12か月 (6か月) × 30日

【対応施策】
・売上債権：債権回収サイトの短縮
・棚卸資産：適正在庫水準の見直しと数量削減

報告セグメントの四半期推移

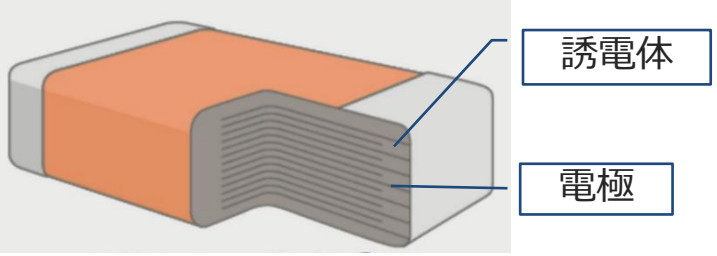
セグメント業績推移（四半期）
(Segment Performance Trends (Base on Quarterly)

単位：百万円 (Unit：Million Yen)			26.3期（FY 2025）				27.3期（FY 2026）			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
電子材料	売上高	Net Sales	2,870	2,976	2,821	2,708	3,364	3,013		
Electronic materials	営業利益	Operating Profit	476	538	424	377	581	560		
化粧品材料	売上高	Net Sales	337	357	426	598	534	512		
Cosmetics Materials	営業利益	Operating Profit	(63)	(152)	0	(220)	(105)	(138)		
有機化学品	売上高	Net Sales	2,121	1,692	1,613	1,757	1,922	2,079		
Organic chemicals	営業利益	Operating Profit	459	43	206	12	256	269		
衛生材料	売上高	Net Sales	1,283	1,287	1,417	1,365	1,428	1,699		
Hygienic products	営業利益	Operating Profit	79	101	127	149	142	117		
受託加工	売上高	Net Sales	1,596	1,695	1,702	1,683	1,730	1,915		
Contract processing	営業利益	Operating Profit	171	180	248	204	231	316		
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	Net Sales	2,688	2,450	2,496	2,608	1,866	1,772		
Titanium dioxide and zinc products	営業利益	Operating Profit	409	248	167	397	142	192		
樹脂添加剤	売上高	Net Sales	3,012	2,808	2,886	2,799	3,114	3,102		
Plastic additives	営業利益	Operating Profit	341	178	282	265	322	377		
触　　媒	売上高	Net Sales	472	748	1,222	1,018	702	877		
Catalysts	営業利益	Operating Profit	(3)	154	392	105	84	101		
無機材料	売上高	Net Sales	1,341	1,291	1,317	1,149	1,484	1,427		
Barium business	営業利益	Operating Profit	289	201	396	312	303	207		
医療事業	売上高	Net Sales	2,097	2,258	2,224	1,810	2,107	2,244		
Medical business	営業利益	Operating Profit	6	65	89	(209)	(19)	34		
そ の 他	売上高	Net Sales	2,313	2,649	2,888	2,575	3,211	2,888		
Other	営業利益	Operating Profit	314	410	411	362	448	362		
全社費用 (HQ expenses)		HQ Expenses	(574)	(591)	(662)	(672)	(683)	(618)		
合　　計	**売上高**	**Net Sales**	**20,136**	**20,216**	**21,017**	**20,076**	**21,466**	**21,534**		
TOTAL	**営業利益**	**Operating Profit**	**1,904**	**1,379**	**2,083**	**1,084**	**1,705**	**1,784**		

事業の紹介

電子材料

積層セラミックコンデンサ
- 誘　電　体（チタン酸バリウム）
- 誘電体材料（高純度炭酸バリウム）



電子機器には欠かせない積層セラミックコンデンサのメイン材料。
誘電体は電気をたくさん貯める性質を持ちます。
当社は、微細で形が均一に揃った球状の誘電体を開発し、コンデンサの性能向上に貢献していきます。

こんなところに使われています



事業の紹介

化粧品材料

日焼け止め、ファンデーション

・化粧品材料 … 高い紫外線遮蔽や滑らかな肌触りを実現

こんなところに使われています



有機化学品

光学部品、コンクリート、潤滑油、医薬品

・有機イオウ化合物 … 樹脂の屈折率向上、耐熱性向上
コンクリート混和剤としても
・有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
・医薬品原薬・中間体

こんなところに使われています





事業の紹介

衛生材料

おむつ、生理用品
・通気性フィルム … 水分を留めて空気だけを通す

海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。

こんなところに使われています



受託加工事業

無機・有機化学工業製品の受託製造
…顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など

さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野のカスタマイズ品や量産試作対応等に、お応えしています。



事業の紹介

樹脂添加剤

パイプ、継手、窓枠、壁紙、ワイヤーハーネス



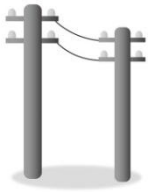
・塩ビ安定剤・非塩ビ安定剤

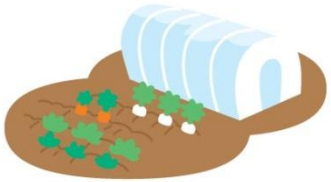
・ﾊｲﾄﾞﾛﾀﾙｻｲﾄ … 非鉛系塩ビ安定剤や
高い保温性と透明性から農業用ﾌｨﾙﾑに

塩ビ安定剤は、樹脂の加工性向上や劣化抑制などのために添加されます。現在、世界的に塩ビ安定剤の脱鉛化が進んでおり、非鉛系への切替えが加速しています。
ベトナム子会社では非鉛系安定剤およびその原料となるハイドロタルサイトを製造、タイ子会社では鉛系・非鉛系安定剤を製造し、いずれも東南アジアを中心に販売を拡大しています。

こんなところに使われています







事業の紹介

酸化チタン・亜鉛製品

・酸化チタン…着色力、隠ぺい力、耐候性、
　　化学的安定性に優れる白色顔料
・酸 化 亜 鉛…ゴム製品の加硫促進助剤

酸化チタンは、塗料やインキ、製紙、プラスチック、化学繊維などあらゆる分野に必要とされる素材です。

こんなところに使われています



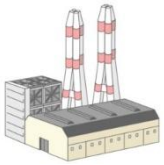

触　　媒

ごみ焼却場、火力発電所、接着剤、光学フィルム

・脱硝触媒 … 窒素酸化物を除去
・プロセス触媒(ニッケル触媒) …油脂・樹脂の水素化など

ニッケル触媒は使用先の光学フィルムや紙おむつ接着剤の需要増加に伴い、事業の拡大を目指しています。

こんなところに使われています



事業の紹介

無機材料

・硫酸バリウム
・ストロンチウム塩類
・ジルコニアゾル 等

硫酸バリウムは、各種塗料やインキ、フィルムなどへ配合されており、意匠性向上や耐熱性向上など、各製品へ必要な機能をサポートしています。また開発品としてジルコニアゾルも取り扱っており、主にメガネレンズ向けの屈折率調整剤等として使用されています。

こんなところに使われています







事業の紹介＜医療＞



カイゲンファーマ㈱

Ｘ線バリウム造影剤



…消化管撮影

1931年に原料となる薬用硫酸バリウムの製造を開始。
定期検診でお馴染みのものですが、海外への輸出も行っています。

医療機器



・内視鏡用洗浄消毒器

バリウムから胃カメラ検診への移行に対応。
薬価改定の影響を受けない事業と位置付け、開発に注力しています。

アルロイドG

…消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬

胃・十二指腸潰瘍の止血や粘膜保護、逆流性食道炎における自覚症状を改善。



一般用医薬品



・「改源」シリーズ
・カイゲン顆粒
・カイゲンパックIB顆粒

「メイドインジャパン」品質で台湾市場への販売を開始。

ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。